

# さがしい村に伝わる 妖怪ばなしでまちおこし

徳島県 三好市

## 四国の秘境 山城・大歩危妖怪村



### 喜びの声



受賞者  
四国の秘境  
山城・大歩危妖怪村  
村長  
宮本 敬

### コメント

この度は、手づくり郷土賞を頂き会員一同感激致しております。記憶を辿れば20年前少子高齢化が進み消滅に向かう地域を何とかしなければとの皆の思いで始めた活動ですが世界妖怪協会の目に留まり、県や市の応援を受け少しずつ大きく育ってきました。今後の活動の励みにし次世代へと繋げてまいります。

### 活動の内容

- 手作りの妖怪 monumento の設置
- 妖怪まつりの開催
- 妖怪屋敷の整備
- 妖怪街道ウォーキング、妖怪屋敷ナイトミュージアムなどの企画・運営
- 妖怪関連商品(土産物、グッズ等)の開発・販売

### 活動の経歴

- 1998年 山城町が「児啼爺」伝説発祥の地であることが判明
- 2001年 地元の藤川谷の会が中心となって「児啼爺」の石像建立、第1回妖怪まつり開催
- 2008年 「四国の秘境 山城・大歩危妖怪村」を結成 世界妖怪協会より「怪遺産」に認定される
- 2010年 道の駅大歩危のリニューアルに伴い、妖怪屋敷がOPEN

### 3 活動の成果や波及効果等

妖怪村が世界妖怪協会が認定する怪遺産に登録されたことで、同じく怪遺産に登録されている鳥取県境港市と岩手県遠野市との交流が生まれ、鳥取・岩手・徳島の3県知事が出席し地域活性化推進を目的とする「怪フォーラム」が開催されました。また、2001年から毎年11月に開催されている妖怪まつりは県外からも多くの観光客が訪れる人気のイベントとなっており、地元小学生が考案した妖怪スイーツや地元特産品の販売、地元の若者が上演する妖怪人形劇などで大いに盛り上がります。

これまで生活の中で伝えられてきた妖怪伝承を妖怪屋敷として活用することで、地域の観光拠点かつ地域文化を次世代が学習し継承する場となっています。



怪フォーラムのチラシ



地域住民による妖怪人形劇



妖怪まつりで自分たちが考案したスイーツを販売する子供たち

妖怪まつりには妖怪たちも参加する

- 所在地 徳島県三好市山城町上名1553-1
- 活動主体及び連絡先 四国の秘境 山城・大歩危妖怪村
- 対象となる社会資本 道の駅大歩危 ※管理者:三好市



### 1 社会資本の概要

「道の駅大歩危」がある山城町は、吉野川の上流部に位置し、国の名勝・天然記念物の指定を受けている大歩危渓谷を擁する日本有数の秘境です。

山城町には多くの妖怪伝説が残されており、多くの方に山城町の妖怪たちを知ってもらおうと、道の駅にリニューアルする際施設内に「妖怪屋敷」を整備しました。中に入ると、地域住民が手作りの山城町に伝わる妖怪たちが出迎えてくれます。また、



道の駅大歩危の外観



妖怪屋敷内では地域住民手作りの妖怪たちがざらり



### 2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

山城町は少子高齢化により地域活動が低下するなか地域の魅力を再発見するために地域の歴史調査をしたところ、山城町が漫画等で有名な「児啼爺(こなきじい)」の伝説発祥の地であり、他にも約60種類の妖怪伝説が残っていることがわかりました。

「児啼爺」伝説発祥の地が山城町であることを後世に伝えるために、全国から支援を受けて「児啼爺」の石像を建立しました。この時のメンバーを中心に四国の秘境 山城・大歩危妖怪村や(株)大歩危妖怪村を設立し、旧山城町より「児啼爺」の商標権を継承、土産物やグッズの企画・開発のほか、手作りの妖怪 monumento を多数設置したり妖怪街道や妖怪屋敷を整備しました。

また、妖怪伝説の残る山城町をもっと知ってもらおうと、様々な企画、イベントも行っています。JR四国とタイアップした企画列車「妖怪トロッコ列車」

多くの人の支援を受けて、「児啼爺」の石像が建立された



©水木プロ



児啼爺が大歩危駅でお出迎え



手作りの妖怪 monumento の設置作業

や夜の妖怪屋敷をガイドと探索する「妖怪屋敷ナイトミュージアム」などを地域住民がボランティアで企画・開催しています。